

●前回(3月31日)以降のデータ公開数は約8,700件

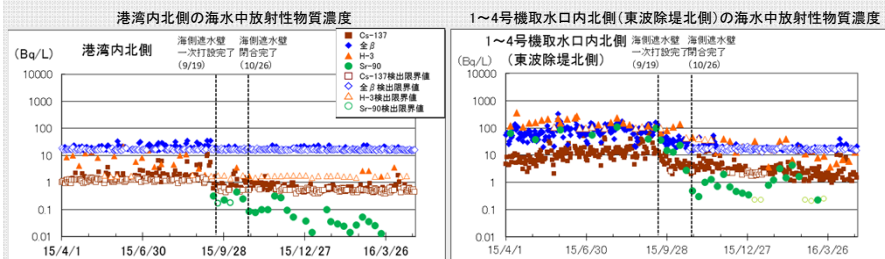
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約8,700件を公開しました。

●1号建屋カバー内散水設備及び3号建屋最上階遮へい体の設置工事実施、敷地内のダスト(粉じん)濃度は安定

1号機では、原子炉建屋カバー内散水設備の一部であるノズルユニットの設置工事を4月6日より開始し、3号機では、原子炉建屋最上階への遮へい体設置工事を4月12日より開始しました。この間、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト(粉じん)濃度に有意な変動は確認されませんでした。今後も飛散抑制対策を着実に実施し作業を進めていきます。

●港湾内海水の放射性物質濃度の傾向

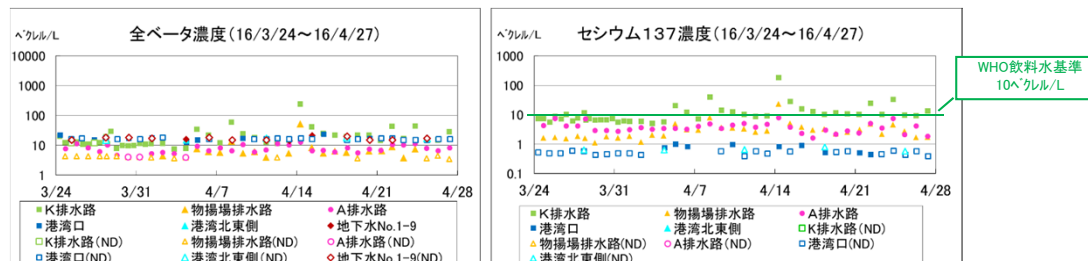
昨年10月、海側遮水壁閉合作業の完了後、1～4号開きよ内および港湾内海水の放射性物質濃度は、降雨時には上昇が見られるものの、低減傾向にあります。引き続き港湾内の水質を監視していきます。



A 水(海水、排水路、地下水等)

- ・K排水路では、降雨時に濃度上昇が見られるものの、昨年のような大きな上昇ではない状況。
- ・セシウム137は、K排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。

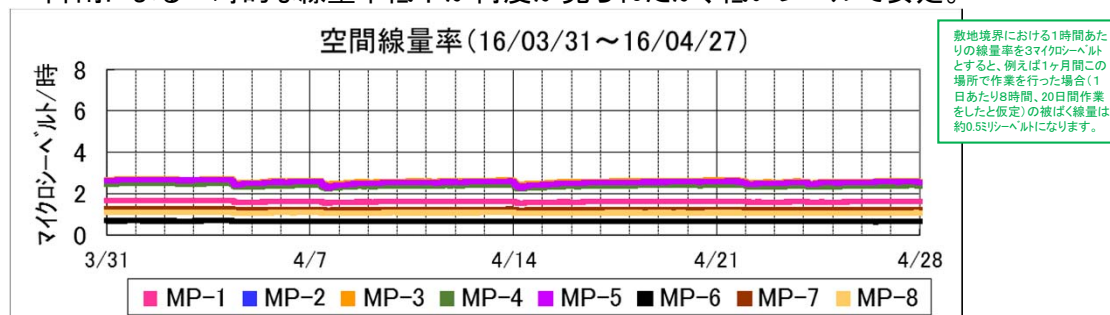
(地下水No.1-9については全ベータ濃度で監視)



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。セシウムも含まれる。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

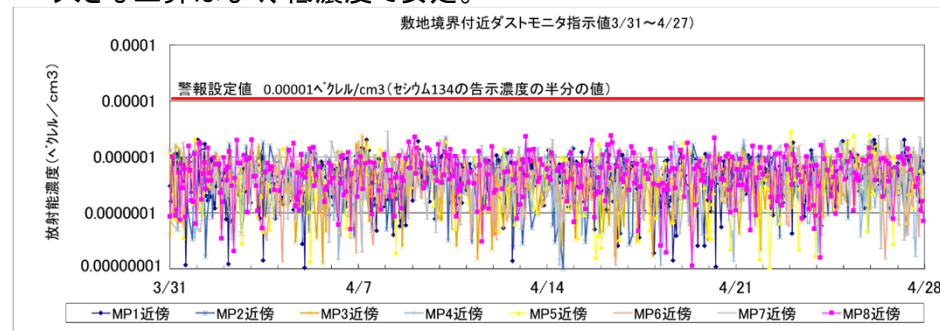
B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- ・降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。

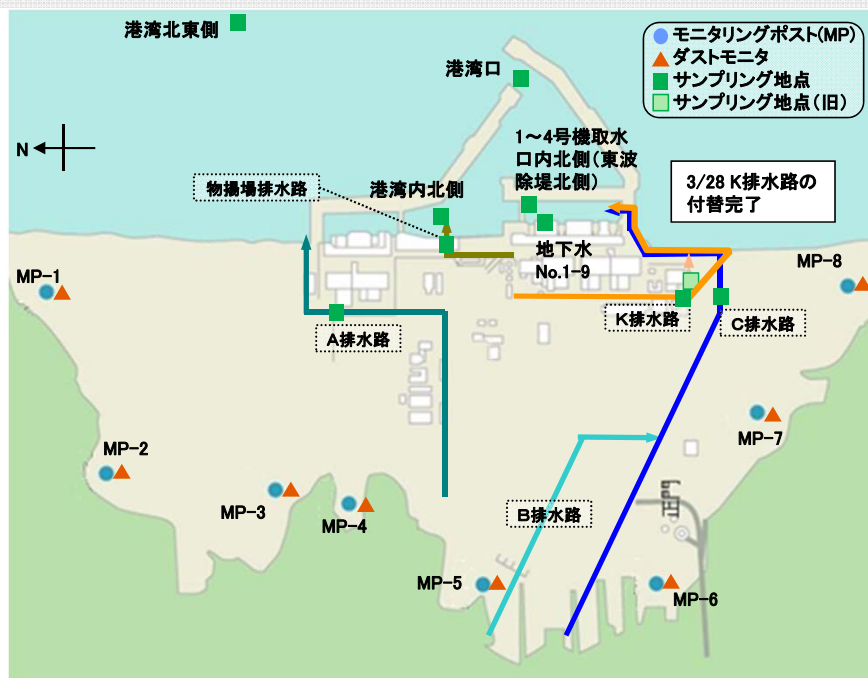


C 空気中の放射性物質

- ・大きな上昇はなく、低濃度で安定。



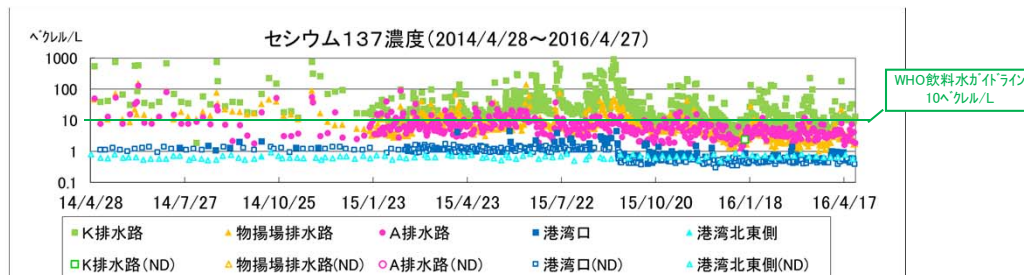
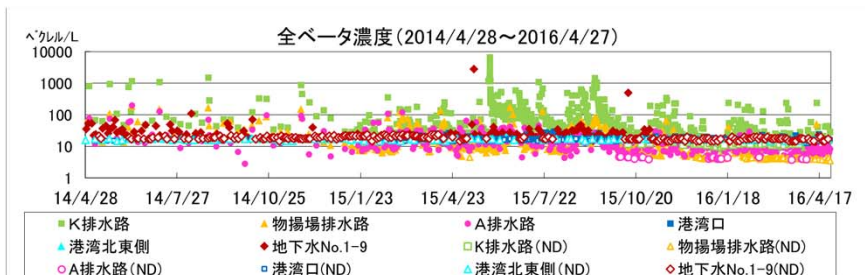
- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。



放射線データの概要 過去の状況

A 水(海水、排水路、地下水等)

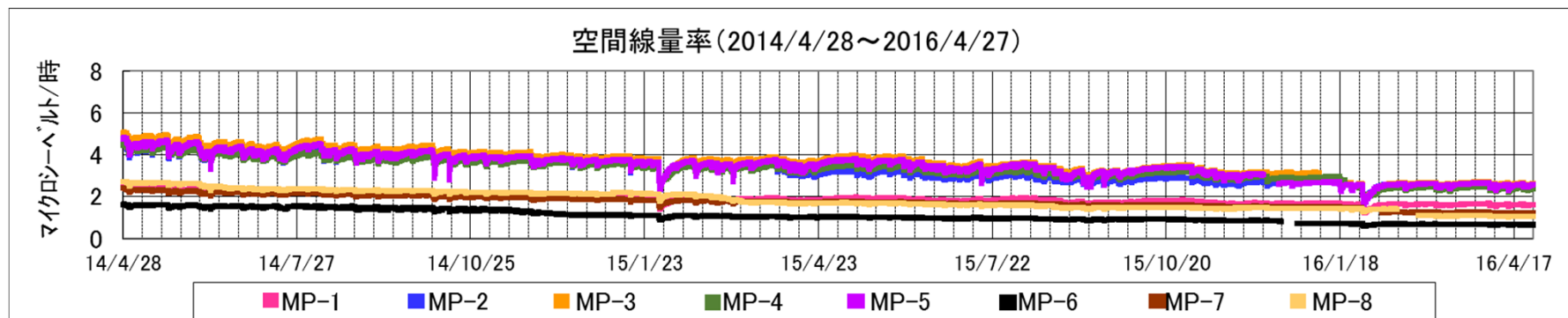
- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路は比較的高い傾向。清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



・K排水路、物揚場排水路、A排水路については2014年4月16日より測定を開始。

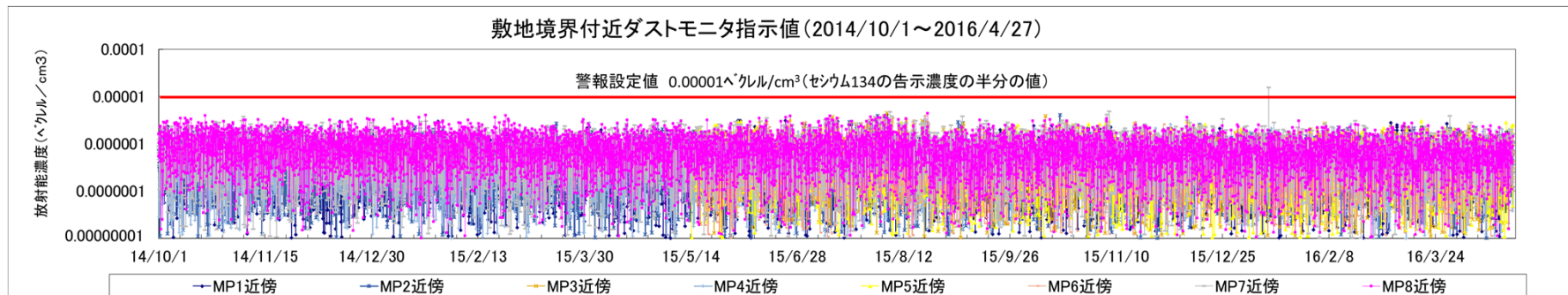
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の約半分まで低下。



C 空気中の放射性物質

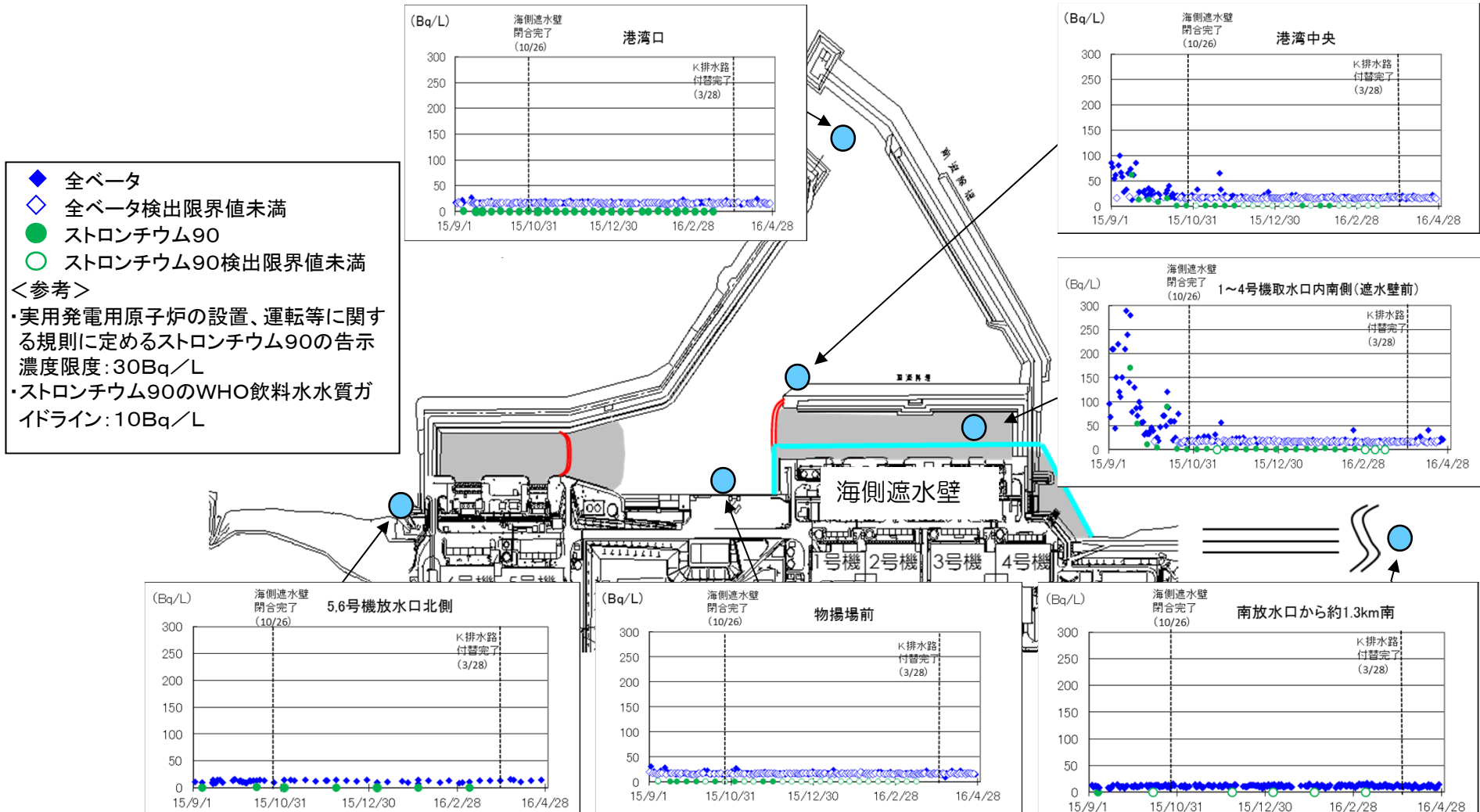
- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



・MP1、2、4、7、8近傍は2014年10月1日、MP3、5、6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

福島第一原子力発電所周辺における海側遮水壁閉合前後の放射性物質濃度の推移

海側遮水壁の閉合後、遮水壁前（1～4号機取水口内南側）および港湾内（港湾中央）の放射性物質の濃度は、降雨時に一時的な上昇がみられる場合がありますが、低下した状態が継続しています。なお、港湾外については、海側遮水壁の閉合以前から低い状態を維持しています。

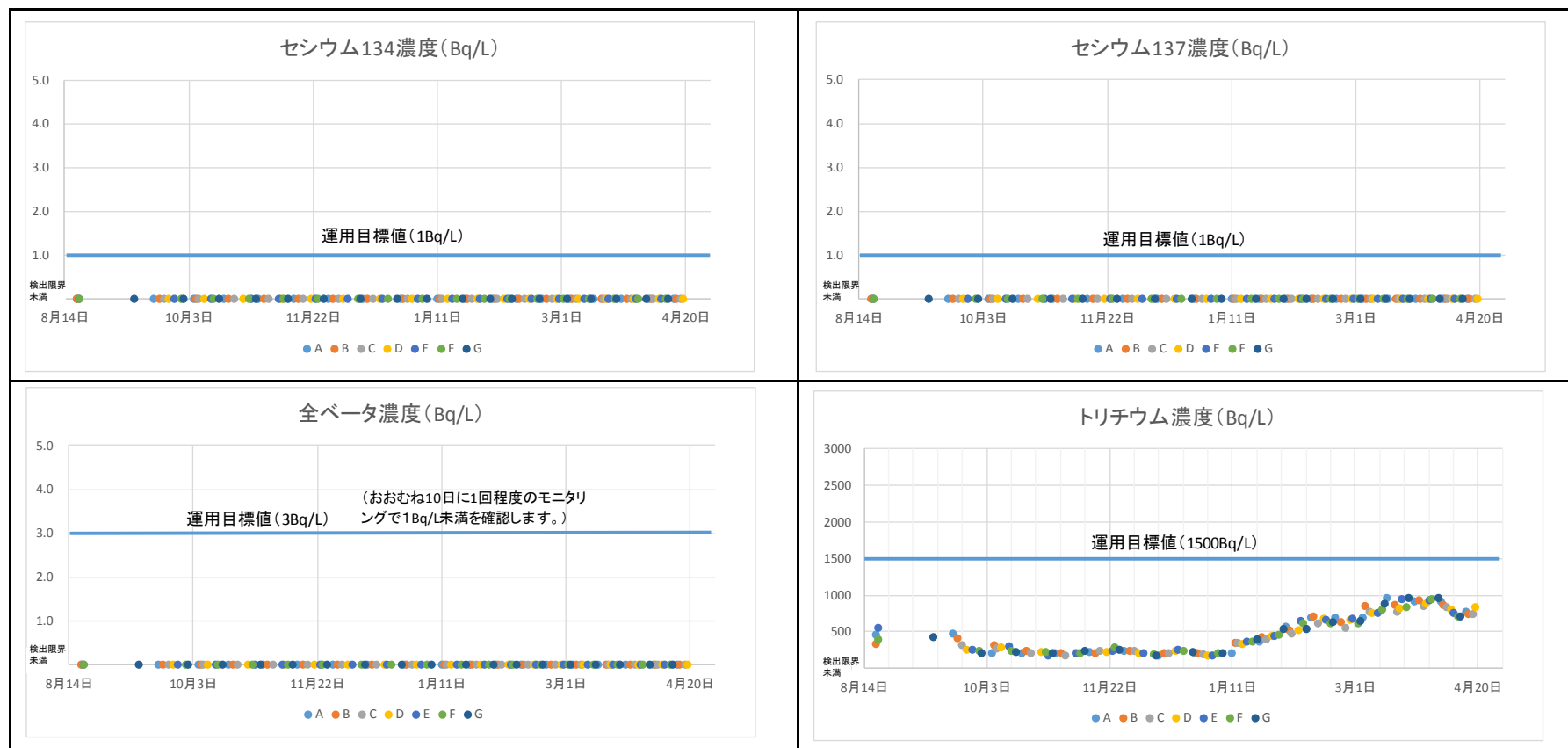


サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、9月14日から4月26日までに合計128回、100,796m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd>をご覧ください。